

ごあいさつ

広島、長崎に原爆が投下されて、78年が過ぎようとしています。

「人間の世界に核はいらない」。

広島、長崎で2度被爆し、原爆の悲惨さを自ら体験した
故山口彊さんは、世界に向けて核廃絶を訴え続けるとともに、

未来を担う人々への遺言として短歌に記されました。

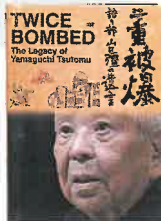
私、西本直代は、氏の生前の記録を残した映像作品の
題字を書かせていただきました。

この度の書展は、山口彊さんからのバトンを繋ぐため、
氏が思いを込めた短歌の一首一首を魂を込めて書にしたため
展示するものです。ご高覧いただき、

平和と生命の尊さを、感じ取っていただけましたら幸甚です。

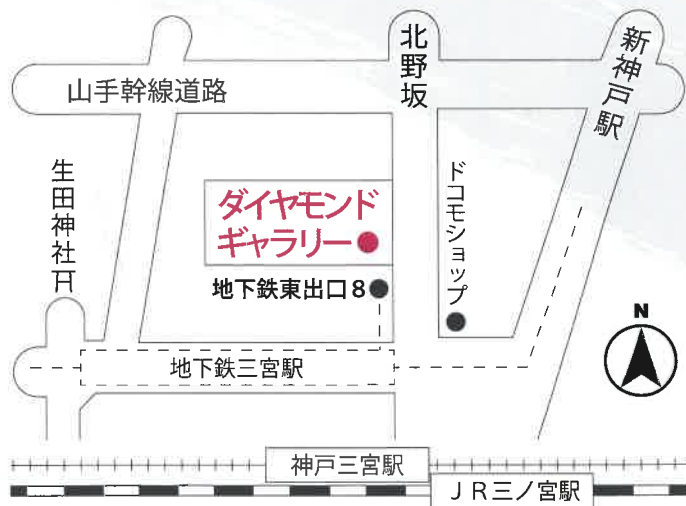
末筆ではございますが、初の個展開催にあたり、
ご助力頂きました山口彊さんの長女山崎年子さん、
ドキュメンタリー映画「二重被爆 語り部山口彊の遺言」の
稲塚秀孝監督、短歌の英訳を引用させていただきました
「And the River Flowed as a Raft of Corpses」の著者
チャド・ディールさんに、心より感謝申し上げます。

西本 直代



「二重被爆者」となった
山口彊氏の語り部活動に
約5年間密着した記録フィルム。

二重被爆 語り部山口彊の遺言
監督/稲塚 秀孝
語り/加藤 登紀子
題字/西本 直代



〒651-0004

神戸市中央区中山手通り1丁目8番11号

【連絡先】090-6209-4899(西本直代)

アクセス

JR『三ノ宮』、阪急電鉄・阪神電車『神戸三宮』、地下鉄・ポートライナー『三宮』駅から徒歩約2分

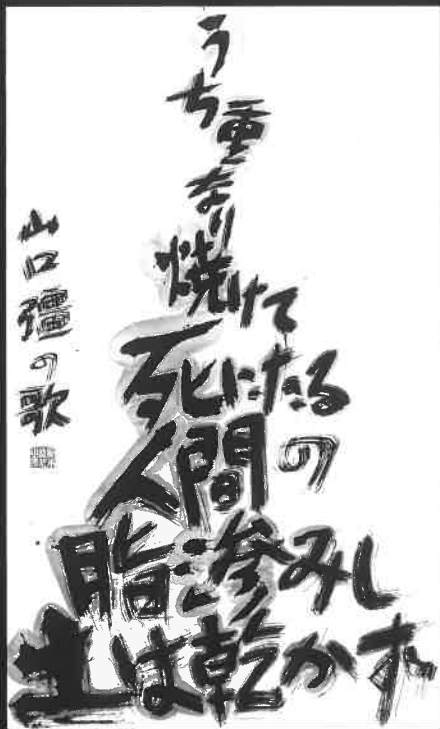
二重被爆 山口彊の短歌による 西本直代書展



2023年 12月12日(火)~17日(日) 入場無料

開催時間 11:00~17:00 ※最終日17日は15:00まで

会場 ダイヤモンドギャラリー



・ 祈

・ ひまわりと銃

- ・ ピカ・ドンに身体灼かれし傷の跡古びて消えず 今日広島忌
- ・ 沖繩戦に玉砕今は骨壺の中小石となりし
- ・ 人間が人間である尊厳さいづこにありや原子野の死体
- ・ 大広島炎え轟きし朝明けて川流れ来る人間筏
- ・ うち重なり焼けて死にたる人間の脂しみし土は乾かず
- ・ スミンニアン原爆展に除外されし融け塊りしロザリオの青
- ・ 広島の被爆路電に座しし俣炭骸化せし佛忘れず
- ・ 黒き雨また降るなかれにんげんがしあわせ祈るための蒼穹



西本 直代 Naoyo Nishimoto

神戸市生。8歳の頃より故村上翔雲創立の「名筆研究会」で書を親しむ。1992年より同会六車明峰に師事。感動を書に表現する事をモットーに今という時代の書を探求。社会福祉法人神戸中央福祉会職員、市内の書道教室講師。名筆研究会理事、芸術文化団体半どんの会会員。

PROFILE

山口 彊 Tsutomu Yamaguchi

長崎市生(1916~2010)。1945年8月6日出張先の広島で被爆、大火傷を負う。翌日、避難列車で家族の待つ長崎へ向かい9日、長崎市の原爆投下で、再び被爆。二重被爆者となる。90歳にしてパスポートを取得し、ニューヨーク国連本部で被爆体験を英語でスピーチするなど、国内外で2度の被爆体験を伝え続けた。

出品リスト

〈パネル11点〉

・ 人間筏

〈雅帖1冊〉

・ 短歌集「人間筏」より86首